

東南アから観光客誘致

中部圏インバウンドプロジェクト戦略見直し

中国以外へ地域拡大

民間主導で中国人観光客の誘致を目指す「中部圏中国インバウンド誘致プロジェクト」は、当面の戦略を見直す。10日、団体名を「中部圏インバウンドセールスプロジェクト」に変更。中国人観光客が減少する一方、東南アジアなどからの観光客が増えているためだ。誘致対象国を中国以外に増やすことで、中部圏のインバウンド拡大につなげる。

(加納由希絵)

拡大することにした。会長を務める名古屋テレビ塔の大澤和宏社長は、10日に開催した通常総会で「ターゲットを広げながら長期的な見通しを持ってやっていく」と話した。今後は中国語以外の言語でも情報発信ツールを制作するなど、取り組みを急ぐ。

団体名変更 昇龍道とも連携

中部圏中国インバウンド誘致プロジェクトは昨年9月に設立。中国の旅行会社に向けて観光情報を発信するウェブサイトの構築などを行っている。現在の会員企業・機関は宿泊施設や飲食店など46団体。中部運輸局が主導の「昇龍道プロジェクト」とも連携している。

初年度に100団体の入会を目指していたが、日中間の外交問題



通常総会では海外の旅行会社向けウェブサイトの紹介などを行った

2013年6月11日(火)

中部経済新聞1面